

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 一般社団法人 HOPEプロジェクト

1. 事業名称

広島地域日本語教育実践プログラム

2. 事業の目的

- ・「生活者としての外国人」とともに多文化共生の地域社会を実現するために、コミュニケーション手段として「日本語」は必須である。また単に支援される側としての外国人ではなく、日本社会の一員として自己実現を目指す外国人のためにも、一方策として日本語教育における学習支援を実践する。
- ・学習支援実践のために支援側の人材の育成と研修の機会を作り、日本人への意識啓発を促す。
- ・より効率的な学習のために 文化庁の「標準的カリキュラム案」を鑑みて作成された教材と学習の場を提供する。

3. 事業内容の概要

過去3年間 文化庁の委託事業として日本語を学ぶ機会に恵まれない外国人生活者の方たちに、短期間でも効率よく学習が進められるよう、日本語教育の専門家による学習の機会を提供してきた。そこで3つの課題が浮上した。

- ①適切なカリキュラムと教材の必要性
- ②指導者および支援者のブラッシュアップ
- ③学習教室の継続性である。

24年度これらの課題が少しでも解決され、日本語を学びたいと開講を待っている生活者の方たちへの学習の機会と場を具体的に提供していけるよう、年間プログラムとして取り組む。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

1	平成12年7月23日 (月) 18:00~20:00	2時間	YMCA会議室	7人	24年度文化庁委託事業について ・運営について	①24年度の文化庁委託事業について説明 ②7月7日からの動きを報告 ・広島YMCA総主事に挨拶 協力を求めた。 ・7月10日に計画書修正版を送付 ③今後の運営について ・情報共有のために evernoteを設定して各人登録する。 ・資金面は当座はHOPEの財源で ・日本語教育関係(教材作成と日本語教室設置)の コーディネートは主に近藤が担当。講師依頼などの コーディネートは二口が担当 ④その他
2	平成24年9月8日(土) 18:00~20:00	2時間	YMCA会議室	8人	研修会を3回実施しての反省を通して 今後の運営について検討	①広報について・個人メールへの一斉配信で広報する ・経済界へも案内を出す(中国経済産業局、広島銀行など) ②会場について ・この先YMCAに確定する (会場費はサービス価格但しマイク、スクリーン、 プロジェクターなど貸り料がかかる) ・会場の掲示をわかりやすくする ③教材作成にあたってのアンケートについて。 ・多言語化の必要あり ④6回目からの研修について ⑤ビデオ撮影について
3	平成24年12月8日 (土) 18:00~20:00	2時間	YMCA会議室	6人	研修会、日本語教室の 運営についての検討 日本語教材の進捗状況	①研修会の参加者への広報について (前回参加した人にも個人的にメールや郵送で) ②教材作成のためのアンケートについて(依頼と集計) ③教材について ・広島県HPの写真の著作権について。 ・写真撮影とイラストへの謝金について ・書籍代は0でもOK(YMCAのを使用させてもらう) 音響関係への予算にまわす ④日本語教室開講にあたっての準備について(担当者等)
4	平成25年3月4日(月) 16:00~18:00	2時間	YMCA会議室	6人	日本語教室の状況報告 今年度の事業の反省、課題 25年度の委託事業について	①アンケートと テストについて ②14日のプログラムについて ・7時までレッスン その後修了式とミニパーティー ・修了証書準備(手作り) ・中級クラスへのボランティアにも呼びかける ・初級受講者のスピーチについて ・その他

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 「HOPE日本語学習教室」
- (2) 目的・目標:生活者(主に配偶者等のビザを持つ人)が生活場面、子供の教育場面等で必要とされる読み書き能力の向上と、コミュニケーション能力の向上。
役所関係書類、町内会連絡、学校からの連絡書、病院での書類等が読んで理解できる。自分にとって必要な情報を収集するなどコミュニケーション能力の向上を図る。
- (3) 対象者:広島在住の外国人のうち、主に配偶者等のビザを有する者、および定住者等
- (4) 開催時間数(回数) 50 時間 (全 20 回)
- (5) 使用した教材・リソース:初級「はじめよう日本語」中級「オリジナル教材」
- (6) 受講者の総数 42 人
(出身・国籍別内訳; アイルランド(1人)、アメリカ(5人)、イギリス(1人)、インド(1人)、ウクライナ(2人)、エジプト(1人)、エルサルバドル(メキシコ国籍)(1人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、カンボジア(1人)、コロンビア(2人)、タイ(2人)、中国(台湾1人)(12人)、フィリピン(1人)、ブラジル(1人)、ベトナム(1人)、ペルー(4人)、メキシコ(1人)、ロシア(3人))
- (7) 受講者の募集方法
・過去の受講者へ 手紙やメール(facebook など)で知らせる
・ちらし(日本語 英語 韓国語 中国語 ポルトガル語訳)を配布。
広島県国際センター・広島市留学生会館・広島市プレスルーム(投げ込み)
公民館などでの日本語教室・華僑華人総会・中国帰国者童心会 etc
・マスコミ関係者へ依頼(中国新聞・HHK)
※参照;日本語教室チラシ PDFまとめ
- (8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	1月7日 (18:00～20:30)	各2.5h	広島YMCA 1号館206	23	自己紹介	(初級) オリエンテーション、プレースメントテスト、自己紹介 (中級)	2名	福永 尚子 近藤 妙子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
2	1月10日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	9	1課・2課	(初級) はじめよう!にほんご1 表現の紹介と練習 (中級) 緊急連絡―言葉の練習・表現練習・読み	2名	青木 美子 森本 智子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
3	1月15日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	9	2課・3課	(初級) はじめよう!にほんご2 表現の紹介と練習 (中級) 交通事故―連絡する―表現とロールプレイ	2名	近藤 妙子 福永 尚子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
4	1月17日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	3課	(初級) はじめよう!にほんご3 表現の紹介と練習 (中級) 健康管理―言葉の練習・表現練習・読み	2名	青木 美子 末田 朝子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
5	1月21日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	4課	(初級) はじめよう!にほんご4 表現の紹介と練習 (中級) 病院での会話―病院の選び方と薬をもらう―表現とロールプレイ	2名	大本 智恵 近藤 妙子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
6	1月24日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	4課	(初級) はじめよう!にほんご5 表現の紹介と練習 (中級) 引っ越し―言葉の練習・表現練習・読み	2名	青木 美子 藤井 慶子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
7	1月28日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	12	5課	(初級) はじめよう!にほんご6 表現の紹介と練習 (中級) 不動産屋での会話―不動産屋で―表現とロールプレイ	2名	近藤 妙子 福永 尚子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
8	1月31日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	5課	(初級) はじめよう!にほんご7 表現の紹介と練習 (中級) 地震―言葉の練習・表現練習・読み	2名	青木 美子 間瀬 いく	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
9	2月4日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	10	6課	(初級) はじめよう!にほんご8 表現の紹介と練習 (中級) 季節のあいさつと手紙	2名	大本 智恵 福永 尚子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
10	2月7日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	11	6課	(初級) はじめよう!にほんご9 表現の紹介と練習 (中級) 表示―言葉の練習・表現練習・読み	2名	森本 智子 近藤 妙子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
11	2月12日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	11	7課	(初級) はじめよう!にほんご10 表現の紹介と練習 (中級) 店での会話―表現とロールプレイ	2名	福永 尚子 大本 智恵	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
12	2月14日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	11	7課	(初級) はじめよう!にほんご11 表現の紹介と練習 (中級) 銀行―言葉の練習・表現練習・読み	2名	青木 美子 森本 智子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
13	2月18日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	9	8課	(初級) はじめよう!にほんご12 表現の紹介と練習 (中級) 銀行での会話―銀行―表現とロールプレイ	2名	大本 智恵 福永 尚子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
14	2月21日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	12	8課	(初級) はじめよう!にほんご13 表現の紹介と練習 (中級) マナー―言葉の練習・表現練習・読み	2名	末田 朝子 青木 美子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
15	2月25日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	12	9課	(初級) はじめよう!にほんご14 表現の紹介と練習 (中級) 謝る―表現とロールプレイ	2名	福永 尚子 大本 智恵	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
16	2月28日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	12	9課	(初級) はじめよう!にほんご15 表現の紹介と練習 (中級) カード―言葉の練習・表現練習・読み	2名	青木 美子 森本 智子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
17	3月4日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	10	10課	(初級) はじめよう!にほんご16 表現の紹介と練習 (中級) カードを作る―カード―表現とロールプレイ	2名	大本 智恵 福永 尚子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
18	3月7日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	10課	(初級) はじめよう!にほんご17 表現の紹介と練習 (中級) 観光―言葉の練習・表現練習・読み	2名	森本 智子 青木 美子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
19	3月11日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	11課	(初級) はじめよう!にほんご18 表現の紹介と練習 (中級) 公共交通機関―表現とロールプレイ	2名	大本 智恵 近藤 妙子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	
20	3月14日	各2.5h	広島YMCA 1号館206	13	11課	(初級) はじめよう!にほんご19 スピーチパーティー・表彰式 (中級) お話しゲーム・スピーチパーティー・表彰式	2名	近藤 妙子 藤井 慶子	2名	稲俣 智子(初級) 二口 とみ奈(中級)	

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



(10) 目標の達成状況・成果

初級クラスではひらがなの読み書きがまだ未習の学習者からすでに相当読み書きもできるが基礎的な知識を得たい人まで学習者の日本語レベルに幅があった。

途中から参加する人も多く、また時間が足りなかったために最終テストは実施せずスピーチにしたが、自己紹介、自国の紹介を学習者全員の前で話せた。

中級クラスにおいては毎回、学習者による振り返りシートを記入し、回収した。教師によるコメントも記入し、教師自身の振り返りシートも毎回記入した。その内容から学習者が主に、語彙面に注視しており、新しい言葉や知識が増えたとの記述が見られた。

また、授業内容については、最終的にアンケートを行い、実施授業の満足度を調査した。初級、中級クラスともにとってもいい雰囲気の中で学習できたようだ。講師に対する評価も好意的で質問に的確に答えてくれたことを喜んでいる。他の日本語教室と違うのはやはり専門家による指導だったからだと思われる。

(参照;PDFまとめ「終わりのアンケート」)

(11) 改善点について

①授業内容の改善点

文化庁から提示のカリキュラムをもとに教材を作成し、実施したが、学習者が実際に求めている授業であったか、やや疑問が残った。広島地区では多くのボランティア教室で生活者の日本語指導が行われており、主に構造シラバス中心の授業が行われている。学習者の多くは重複してそのような教室で学習しており、日本語の構造や文型表現について強い意識をもって学んでいるように思われる。文化庁のカリキュラムでは生活場面の問題点となるテーマが中心である。日常生活での情報提供を目指した教材を作成し授業を行ったところ、学習者から「表現や文法の練習が少ない」との声があった。表現や文法も盛り込んだつもりではあったが、時間の都合で割愛される部分であったため、学習者からこのような声が出たと思われる。

②授業運営の改善点

どのような学習者が来るか、教室を開いてみなければわからないため、クラス構成や実施の授業内容には日々の改善や方向転換が必要である。このプログラムでは予算や、授業実施の内容に制約がありすぎて、学習者中心の授業の実施が制限された。例えばクラスを2つで実施のところ、3つのレベルに分ける必要があったり、テキストを作成しても参加の学習者に合わせて改定したり作り直したりする時間が取れないことである。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称：日本語指導者（養成）研修会

(2) 目的・目標：多文化共生の地域社会づくりのために必要なコミュニケーション手段としての「日本語」の学習支援を実践していくために支援側の人材の育成と研修を目的とする。支援を受ける側へ文化庁の「標準的カリキュ

ラム案」を鑑みて作成された教材と学習の場を提供するための具体的な指導法など

研修していく。

- (3) 対象者；・日本語指導者・日本語教室ボランティア・日本語指導に携わっている人

・在住外国人と関わっている人

・多文化共生への取り組みに関心のある人

・日本語のできる外国人 他

- (4) 開催時間数(回数) 36 時間 (全 10 回)

- (5) 使用した教材・リソース； 各回の講師からのレジュメ&資料

- (6) 受講者の総数 102 人

(出身・国籍別内訳 日本 95 人, 中国 3 人, ブラジル国 3 人 韓国 1 人)

- (7) 受講者の募集方法

1. インターネットによる広報；

HOPEプロジェクトのホームページ・ひろしま情報 a-net・広島YMCAのメールマガジン

2. チラシ作製、印刷、配布

- ・関連機関；広島県国際センター、広島市留学生会館、広島市交流プラザ、海田国際交流協会、ボランティア日本語教室 等に置く
- ・広島市役所内 プレスルームへの投げ込み
- ・中国新聞、NHKなど友人を通してマスコミへ広報依頼

- (8) 養成・研修の具体的内容

	開催日	時間数	受講人数	会 場	内 容
①	8 月 3 日(金)	3 時間	25 人	留学生会館 研修室1	生活者としての外国人(ブラジル、中国)の生活者としての声を聴く。広島市の施策は？
②	8 月 25 日(土)	4 時間	30 人	広島YMCA 1号館 303	多文化共生社会を地域に根付かせるためには？東広島市からの事例とともに
③	9 月 8 日(土)	3.5 時間	53 人	広島YMCA 3号館4-A	地方自治体および国の外国人受け入れ政策の変換と「多文化共生」への課題、および今後の展望。広島県の海外人材の活躍環境づくり他
④	10 月 7 日(土)	4 時間	22 人	広島YMCA 3号館4-A	「多文化社会の中での日本語教育の立ち位置」を共生の可能性や醍醐味を考えながら。
⑤	10 月 20 日(土)	3.5 時間	51 人	広島YMCA 1号館 303	日本語教育と国語教育のコラボレーション
⑥	11 月 30 日(土)	3.5 時間	41 人	広島YMCA 1号館 303	地域の日本語教室におけるボランティアの取組
⑦	12 月 15 日(土)	3.5 時間	31 人	広島YMCA 1号館 303	生活者のための日本語教材作成にあたってアンケート報告と教材の概要説明

⑧	12月22日(土)	3.5時間	42人	広島YMCA 1号館303	生活者のための日本語教材(中級)の紹介と進め方
⑨	2月23日(土)	3.5時間	29人	広島YMCA 3号館4-A	「生活者としての外国人」が、支援と日本社会での共生に向けてどう考えているか？ナマの声を聴く
⑩	3月2日(土)	4時間	9人	広島YMCA 3号館2-A	ビデオによる研修(③、④、⑤回目の研修をビデオによるダイジェスト版で研修。)

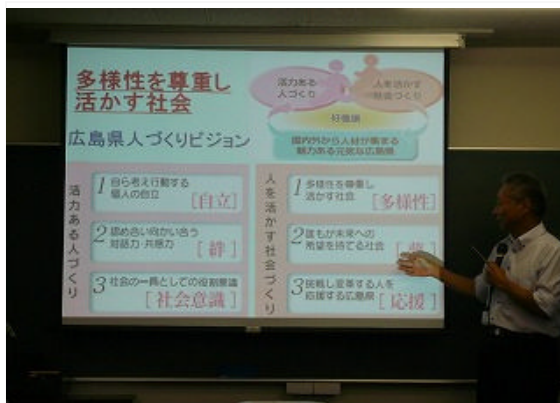
(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



8月3日 生活者としての外国人の話を書く



9月8日 国・県の施策について



* 2回目からビデオ撮影をしています。3, 4, 5回目の研修会のビデオは DVDに編集して、10回目の研修会で再研修をしました。

(10) 目標の達成状況・成果

① 広島地域での研修会開催の意義

広島地域 特に広島市では 日本語教育関連の研修会が少ない。インターネットによる情報・知識が得られるようになったとはいえ、講師から直接受ける研修の機会 は強く望まれている。特に参加型の研修では「生活者としての外国人」への意識啓発に効果があったと思う。しかし 現実には講師を呼ぶほどの経済的余裕がないため これまで実現できなかった。今回委託事業のお蔭で 東京からお二人の講師をお呼びすることができたことは特に日本語ボランティアの人たちにとっては望まれて

いたことだった。

今回 遠方からの参加者もおられたが、主として土曜日に開催していったため、主宰している教室と重なって参加が難しかった人も多かった。そのため最終回にビデオによる研修を初めて試みた。ビデオでの研修は 講師の了解を得た上だったが、本来ならダイジェスト版を編集してそれを講師に目を通していただいた上で受講者に見てもらうべきだったと思う。(今回はそこまでの時間がなかった)

② 講師のコーディネート

24 年度は採択通知が来たのが、6 月末で それから正式に講師依頼交渉が始まった。10 回の研修会を開催すべく講師のコーディネートは時間的に非常に厳しかった。それでも 今回の研修会はこれまで温めていた「自分たちの身近なところから、在住所の生の声聞き、それに対して広島市はどう対応しているのか？そして広島県はどのような施策を講じているのか、さらに国は？と視野を広げて行き、その中で 今 日本語教育がどういう立ち位置にあるのか？日本語教育に入っていき、国語教育を参考に具体的な日本語教育(読む、書く、を中心)での具体的な指導法を研修していくというプログラムを実現させた。

12 月に入ってからほぼ完成された教材を 研修会受講者に紹介して実際に使ってみて 評価してもらった。いくつもの気づきがありそれをさらに教材へ反映して 1 月 7 日からの日本語教室で 使用した。

とかく 支援活動というのは 支援する側の思い込みで一方向的に「してあげる」態勢で続けられることが多い。9 回目の研修会では 3 か国の定住者を講師として呼び、生の声を聴いた。広島市が多言語で出しているごみの分別表のチラシがあることを中国定住者が知らないというのを聞いて参加していた市職員がショックを受ける一場面もあった。

また 6 回目の研修会では 日本語教室のボランティアにパネラーとして 各教室の様子を伝えてもらった(資料参照;「11 月 30 日の資料」)こうした研修の場をともに持つことで 支援者側が顔の見える連携が取れるようになった。

(11) 改善点について

① 集客について

精一杯広報したつもりではあったが、イベントや研修会などと重なって、集客が難しかった。会場を借りていたYMCAの集中講義などと重ならない日程にしていきたい。

② 講師の選択

北脇先生も野山先生も非情に有意義な講義だったが、次年度はもっと身近なテーマで問題を掘り下げ、研修を継続していきたい。たとえば在留カードについて 司法書士から学んだり、外国人のよく通う病院のドクターを呼んだりして 現実、

外国人が抱えている問題に対応した講師の選択をしていきたいと考えている。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

中級用 読み教材・会話教材

(2) 対象;「生活者としての外国人(成人)」

(3) 目的・目標

日常生活の情報を得るための読み作業に慣れ、生活場面で伝えたいことを述べられ、相手の話を聞きとる行動を体験する。また、生活場面(緊急連絡・健康管理・区役所等)での必要な語彙を習得する。

(4) 構成

読み教材: 1. 導入 2. 言葉の練習 3. 表現の練習 4. 本文 5. 確認しよう
6. 話してみよう 7. 活動

会話教材: 1. 目標 2. 今日の課題 3. ことば 4. 表現と練習 5. ロールプレイ
6. 会話例 7. 広島弁の表現 8. 今日のテーマで話してみよう

(5) 使い方

1テーマを1回の授業(150分)として、それぞれ教材に従って順次授業活動を進める。

(6) 具体的な活用例

教材は1回の授業を想定して構成されており、教授者が変わっても均質な授業運営が実施できるように工夫している。生活者を対象とした日本語教室などでそのまま活用できるように解答例もある。但し、広島地域に限定した内容であるので、地域によっては読み教材の本文は活用しにくいものがある。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的 多文化共生の地域社会づくりのために必要なコミュニケーション手段としての「日本語」の学習支援を実践。

実践のために支援側の人材の育成と研修、支援を受ける側へ文化庁の「標準的カリキュラム案」を鑑みて作成された教材と学習の場を提供する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

24年度の事業が23年度に課題として以下の3点を提示していた。

- a) 適切なカリキュラムと教材の必要性
- b) 指導者のブラッシュアップ
- c) 教室の継続性

このうち24年度の委託事業が3本柱になったおかげで a,b はクリアできた。

しかし 期間が限られており、いささか消化不良のところもある。日本語教室においてはわずか 50 時間だったため 修了者は次の講座の開講を強く望んでいる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

日本語教室運営のために作成した教材は、標準的なカリキュラム案を土台にし、学習者への事前調査と照らし合わせて項目をピックアップした。事前に作成されている教材も参考にし、利用できるものは活用した。作成した教材は地域ボランティア教室で活用していただけるよう、ネットワークを構築する。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

事前調査にあたっては地域の日本語教室の方々に協力いただくとともに、研修会では積極的に地域の教室の皆さんに参加いただいた。そのおかげでさらにネットワークも拡がり、顔の見える連携ができるようになった。また、広島市の人権啓発課・広島県国際課とも協力関係がやっとなぜか始めた。本来 当事業は 県、市レベルでの関連機関が受けるべき事業のはずである。しかし 広島市も広島県も それを担当する人間が居なかったり、施策が「生活者としての外国人」に向けられていなかったりして まだまだ体制整備はできていない。ではNPOやボランティア団体に任せればいいのか？ 25 年度の募集要項が発表されたが、その要求されている事業内容は われわれのような小さな団体では無理だと判断した。24 年度に生み出された成果が少しでも 25 年度に活かすことができるよう、身の丈に合った活動にしていくきっかけを作っていただいたことは 大きな成果だったと思う。

(5) 改善点、今後の課題について

日本語教育指導者養成研修、教材作成、日本語教室運営が一つになったプログラムは、構成としては理想的に思えるが、すべてを同時に行うにはかなりの制限がある。教材作成は早めに取りかからなければ教室運営には間に合わないが、教材とは学習者に合わせて準備されるべきもので、学習者が未定の状況で作成するという現状であった。学習者が見えて軌道修正するにはかなりのエネルギーが必要である。自作教材を使用することが義務付けられていたが、市販の教材を使用することで学習者に対してフレックスに対応できたことは否めない。学習者のための日本語教室であるのだから、教材についての制限はもう少し緩やかに検討していきたい。

日本語教育指導者養成研修についても行政の方々にもっと多く参加していただき、多文化共生とは何をするのか、というところから学び、具体的な日本語指導にいたるまで研修に盛り込めるプログラムが必要であった。実際の現場で役に立つ指導者の養成を目指すのであれば、限られた教材だけでなく、市販教材をどのように使用するかといったことも加えて研修を実施できることが望ましい。

単発的に限られた時間と予算の中での取り組みでは限界があるし、成果が望めるとは思えない。国としての言語政策が打ち出され それに対して各自治体で現場に即した施策を

講じていくことが 今後、外国人を受け入れざるを得ない状況になっていく日本社会ではさらに必要になっていくのではないだろうか。